

帰島から9年目 佐藤会長年頭の挨拶 再生・復興の契機に



ふるさとネットは、皆さまの寄付等のご協力で活動を続けております。有難うございます。DTPAの編集、事務局の発送でこの「三宅島新報」も皆さまのお手元に計画通りお届けしてい

ます。「三宅島新報」は、唯一2000年噴火災害以降ご支援を頂いている島内外の多くの皆さまやマスメディア、大学・研究機関・専門家などを含めて窓口となり、絆を保つ役割を果たしてきま

た。大規模災害と被災地の混乱が続く中、災害の実態、被災者の声、救済の課題など被災地からの発

新年あけましておめでとうございます。2014年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。今年度は全島避難指示解除から9年目の年。被災者支援策が来年度打ち切られことが表明される一方、調布飛行場からの空路が実現したり、新造船の就航など明るい話題もあります。そのことを三宅島の再生・復興に繋げられる1年間にしたいものです。



発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

あけまして
おめでとう
ございます

○ご寄付のお願い
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：加藤

信は、今こそ社会を変える原動力となると思っています。あらためてご協力ご寄稿を頂いている皆さまに感謝を致します。来年は、帰島から10年という節目を迎えようとしています。長期災害を象徴している住居・生業禁止の高濃度地区が準居住地区になり生業が可能となりました。しかし未成年、高感受性者は禁止のままで家族の分断は続いています。一方、国・都・村の被災者支援策は、10年の境を理由として、来年2月1日に打ち切りが表明されました。村長と村議会

は、この地区の規制全面解除の決断を急がないといけません。村長と村議会の努力により人工透析導入は実現。2、3割の就航率の空路も4月から調布飛行場となり3便、7割前後は飛行可能見通し。汽船

も新造され就航の予定。三宅島行が便利となり、準居住地区を解除し風評被害がなくなれば、観光業など一段と三宅島再生・復興は可能です。良今年もよろしくお願致します！

ふるさとネット事務局長 加藤 さおり より強い絆を結べるように



あけましておめでとうございませう。昨年も、様々な方々に助けていただきながら活動に取り組んでいくことができました。

きました。感謝申し上げます。12月14日の「三宅島支援者の集い」でも、長年に渡り三宅島の支援や応援をしてくださる方々が参加、メッセージをお寄せくださり、人と人との絆を強く感じることができました。

今年も、事務局一同尽力して参りますので、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

「支援者の集い」賑やかに開催

復興・活性化への思い込めて

「三宅島支援者の集い」が昨年12月に開催された。会の中では全島避難当時から島の支援を続けている防災コーディネータの京町さんがスピーチを行ったほか、舞踊家の鶴吉さんも華麗な舞を披露してくださり、会は盛況のうちに終了した。



「風化を防ぐことが大切」と挨拶をする佐藤会長

「三宅島支援者の集い」は、昨年12月14日に、品川区の「ビストロおきみくら」で開催された。今回の集いには、多くの支援者のほか民主党都議会議員の齊藤あつしさなど様々な分野の方々合計24名が参加した。

部の第1部はふるさとネット佐藤就之会長



三宅への思いを語る京町さん

の挨拶で始まり、続いて防災コーディネータの京町（みやこ）さんが、「ふるさと」を独唱したのち、三宅島の支援を始めるきっかけとなった経緯について、95年の阪神淡路大震災当時の苦境を振り返りながら語った。



鶴吉さんの華麗な舞踊

メッセージ紹介 寄せられた応援の言葉

三宅村村長 櫻田昭正様
「三宅島支援者の集い」の開催おめでとうございます。火山ガスの噴出量も減ってきており、高濃度地区がなくなるなど明るい兆しが見えてきたことを喜ばしく思っています。皆様方の息の長いご支援に心より感謝申し上げます。
都議会公明党幹事長
中嶋義雄様
伊豆大島でも深刻な災害が発生しました。島しよ部の防災対策にさらに力を注ぎ、農水産業

や観光など経済の復興策の強化にも取り組んでまいります。三宅島のさらなる復興を心から祈念しております。
民主党東京都議会議員
齊藤あつしさ様
同じ東京の島である大島が甚大な被害に会いました。東京都は三宅島、大島のこれまでの災害経験を次の「安全」につなげていく努力をこれからもしてまいります。私共もしっかり取り組んでまいります。
(他は「ふるさとだより」で紹介)

たメッセージが紹介された。その後、向上高校校長の山田貴久さんの音頭で乾杯。噴火前に三宅島でペンションを経営して

いた「おきみくら」のご主人が新鮮な食材で作る魚料理やオムレツなどの料理に舌鼓を打ちながら、参加者はそれぞれに会話を楽しんだ。

鶴吉さん「望郷の詩」を

会の第2部では、危機

管理勉強会の塾長・齋藤實さんの挨拶。齋藤さんの指名で災害復興・まちづくり支援機構の弁護士・安藤建治さんと吉田雅一さんが挨拶をした。続いて、DTPA代表の山尾啓予さんが、11月16日の社会福祉学会で、

本紙の編集などが評価されて、「奨励賞」を受賞したことの報告を行った。(4面に詳細記事) さらに、参加者一人ひとりが自己紹介と挨拶を行う中、到着した齊藤あつしさんからも、挨拶を頂いた。
会の終盤には、舞踊家の鶴吉さんが妖艶な舞いを披露。この日が忠臣蔵赤穂浪士討ち入りの日であったことにちなんで忠臣蔵を題材にした舞いや「望郷の詩」など4曲を披露し、会場の参加者を魅了した。

島へのアクセスが便利に 飛行機 4月2日以降調布から

空海ともに三宅島へのアクセスが便利になる。空路は4月2日から調布飛行場発に。また、東海汽船は7月から新造船「橘丸」が就航する。飛行場が変わることには不安の声もあるため、新宿からの経路を確認するため実際に足を運んでみた。

海路は7月に新造船

今年2014年は、三宅島と内地東京間の交通アクセスが空・海ともに大幅に変わる。

全日空が3月末で廃止、4月2日から新中央航空が調布飛行場へ三宅島間を飛ばす。所要時間は50分、日に3往復。定員は、19人。調布発9時15



新たに定期便が就航する調布飛行場

「橘丸」が三宅島御蔵へ八丈間に就航。定員約1千人、全長118m、速力約19ノット。エレベーター付で運航予定。料金、時間未定。戦前から昭和48年まで「東洋の貴婦人」と呼ばれた名船を継承した。空・海の玄関口の改変に應える観光関係者の腕の見せどころ官・民一

分、11時10分、14時40分。三宅発10時30分、12時30分、16時。航空運賃は、1万7千200円(片道)。ちなみに、大島までの料金は1万1千500円、新島は1万3千700円、神津島は1万4千900円。11月の住民懇談会で村は、料金割引を各方面に働きかけよとの要望が強く出された。

住民懇談会

人工透析の状況等報告



三宅地区の懇談会(11月12日)

住民懇談会が11月11日より3日間、坪田、三宅(神着・伊豆・伊ヶ谷)、阿古地区で開かれた。村の報告は、空路、人口透析、坪田・多目的施設など重要課題が報告された。

特に、人口透析については、患者の受入数は、容態をみて16人程を見込んでいる(在京者も可)。看護師2名を採用しだいで開設できると報告された。参加者は、村発表で74人。

また、村会議員による議会住民懇談会も11月28日神着老人福祉館で開き14人が参加し質疑討論を行った。

新宿から調布へ

体で観光復興の契機としたいものだ。

「料金が高く、年金生活者には、厳しいな！」

「3便飛んでくれれば、足や身体が少し悪くても島の墓参り、家や畑も見ることが出来るな」と在京者の声も聞こえる。

そこでまずは、佐藤が11月28日、調布へ!

JR中央線新宿駅で武蔵境駅まで料金290円。12番線中央特急14時37分発で二つ駅目の三鷹駅下車、ホーム前の各駅に乗換。49分発。一つ目の武蔵境駅(南口)下車、53分着(16分前後で到着だ)。

15時にタクシー。調布

飛行場を告げると一車線道路を走るとスバル工場を右に下り坂を走り当着。タクシー代1700円支払。

新しいターミナルへ中に入ると想像したより広くきれいだ。二階には展望台もあり机と椅子が45卓あり左に3機、右に運航予定のドイツ製ドルニエDc228型機がある。少しぶらぶらしていたら16時45分の神津島最終便が当着10人位が降りてきてタクシー乗り場に向かった。

帰りは京王線で

帰りは、京王線調布駅にタクシーへ、代金は、1340円と安い。4、5台来ている。乗客につ

いて運転手に聞くと時には、一人二人の時もあるのあまり期待できないと語っていた。

調布駅は、入口は地味で地下2階に下り特急に乗車。調布へ明大前へ新宿駅まで230円。通常16分位で新宿につく。やはり階段を上るので荷物をもつと少し大変だと思った。

空港のバスの時間は、6時に三鷹駅行き12分、41分、58分(土日は12分、41分)次いで12時19分(土日は16分) 15時は3分(土日10分)のみ。

調布駅行きは、8時5分(土日同) 17時50分だけ。小田急バスが運行している。バスの運行は、容易でないと思った。

DTPA 社会貢献学会奨励賞を受賞 新報の編集等評価されて

D T
P Aが、社会貢献学
会賞の奨励賞を受賞した。
これは2005年から新報編集し
てきたことなどが評価されたも
ので、佐藤会長はじめネット
のみなさん、読者の皆様に
支えられた結果と考えて
いる。



表彰式終了後の記念撮影

社会貢献学会賞の表彰式は、11月16日10時から工学院大学新宿校舎で行われた。この賞は、一末来につなぐ社会貢献「小さな芽吹きを大きな力に」がテーマで、今回は52件の応募の中から、最優秀賞が1名、最優秀賞4団体、奨励賞が24団体に贈られた。私たちがDTPAは、三宅島新報の編集などを評価していただき、奨励賞を受賞することができた。式は午前10時、午後の部に分かれて行われ、午前の部では主催者を代表して社会貢献学会会長の渡辺信英さん、工学院大学学長の水野明哲さんの挨拶があり、その後の、最優秀賞、奨励賞の表彰では受賞者を代表して、市

ご寄付者名

吉田信行様 四谷信子様
廣瀬佐智子様 吉野文雄様
佐藤宗ノ子様 齋藤井上教子様
實様

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。
(10月18日～12月14日)

民・企業・行政協働でのボランティア活動が認められて最優秀賞を受賞した神奈川県横浜市の鈴木一男さんが賞状を受け取った。
全員での記念撮影の後、「災害復興とそのミッション」と題して、慶應義塾大学教授で元島根県知事、元総務大臣の片山善博氏による基調講演が行われた。続いて片山氏と工学院大学教授の久田嘉章氏、そして学会賞受賞者の7人が壇上でパネルディスカッションを

行った。
午後の部では社会貢献学会総会後、各団体のポスター発表と市民報告、口頭発表が行われた。
DTPAを代表して出席していた会長の山尾啓予さんは、「小さくても継続的な活動が、様々な面で社会貢献となっていくことを感じました。移行が変わる環境の中で、何が必要なのか、自分達のミッションを捉えなおしながら、今後の活動にも注力して行きたいと思えます」と話した。

編集後記
新しい年を迎えることができました。今年も島から9年目、新報は次号で50号を数えることを考えると、長い時間の流れを感じます。
被災された方は、止まった時間と流れる時間のギャップに辛い思いをされているかもしれませぬ。私たちは、これからもうそういった方々の気持ちに寄り添っていきたくて考えています。
(DTPA一同)

図説「三宅島の神々を訪ねて」

神社めぐりのガイドブックを

三宅村伊豆在住 島崎 広光

現在編集途中で、来年1月には図書館等の施設で閲覧開始予定です。
三宅島には資産価値の高い神社が沢山眠っている、この神社を知っている方が居なくなる前に調査をする必要があると思った。また、ある古老の方の「島に多数の神社があるのに未だ未整備なのが情けない」という一言で今までの撮りためた写真を整理し、後世に残そうと思った。
明治18年神社地図を片

手に道なき道を歩きまわったこの1年、探し求めた小さな祠を見つけた時の感動はやっぱり一人では味わってほしかった。
今回の編集方針は、三宅島の神社の背面にとじ込んである三宅島明治18年神社地図と三宅島民衆地図を中心に富賀神社をスタートして島内一周を取りまとめること。さらに三宅島史・三宅島史考を参考に、両者に収録さ

れていない三宅島神社の地図も納めて、未だに多数の発掘されない祠等については、今回は省略することにしました。
これらは、今後「三宅島のおもちゃ話」に掲載してゆく予定です。
【著者略歴】
・昭和20年10月14日 北海道中札内村に生る
・昭和39年4月東京都入都
・昭和44年4月、平成10年4月、平成21年4月に三宅支庁勤務
・平成23年3月東京都退職